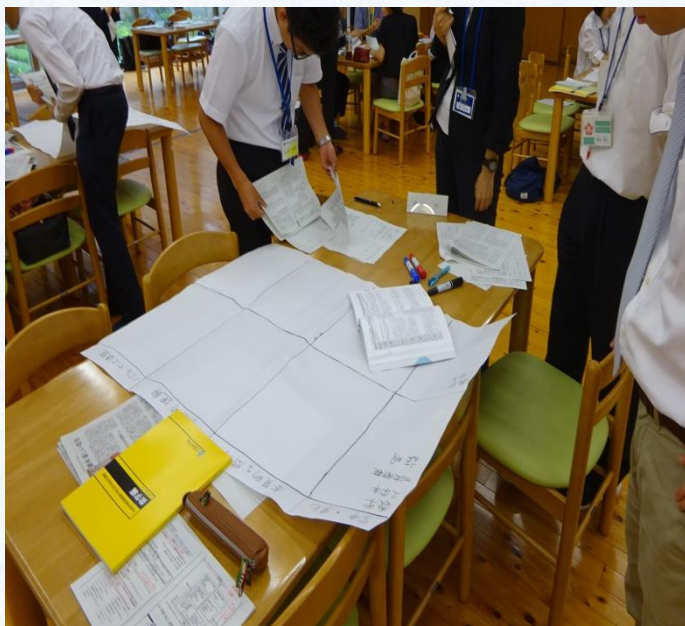


文部科学省 研究指定

教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善の推進事業
(平成30・令和元年度)



京都市
の取組

1 京都市のこれまでの取組と現状

京都市の基本方針

一人一人を徹底的に大切に
する教育
～授業改善を推進し、学力向上を目指す～

京都市学校教育課程指導計画
「京都市スタンダード」

各校の教育課程編成の基準
・教科書採択ごとに作成 ・各教科等
・全学校に配布(各学年, 各教科等)

「京都市スタンダード」もとに、各校の創意工夫
で研究・実践を推進

京都市スタンダードをもとに授業改善を実践しているが、教科等
の「本質的な学び」を深め、協働型授業への改善がさらに必要²

学力・学習の現状
全国学力・学習状況調査の結果から

H30の結果より
・国語, 算数・数学のAB問題
全国を0.8から3.3ポイント上回る

個別の学校でみると課題あり
「主体的に学びに向かう力」に課題あり
「深い学び」に課題あり

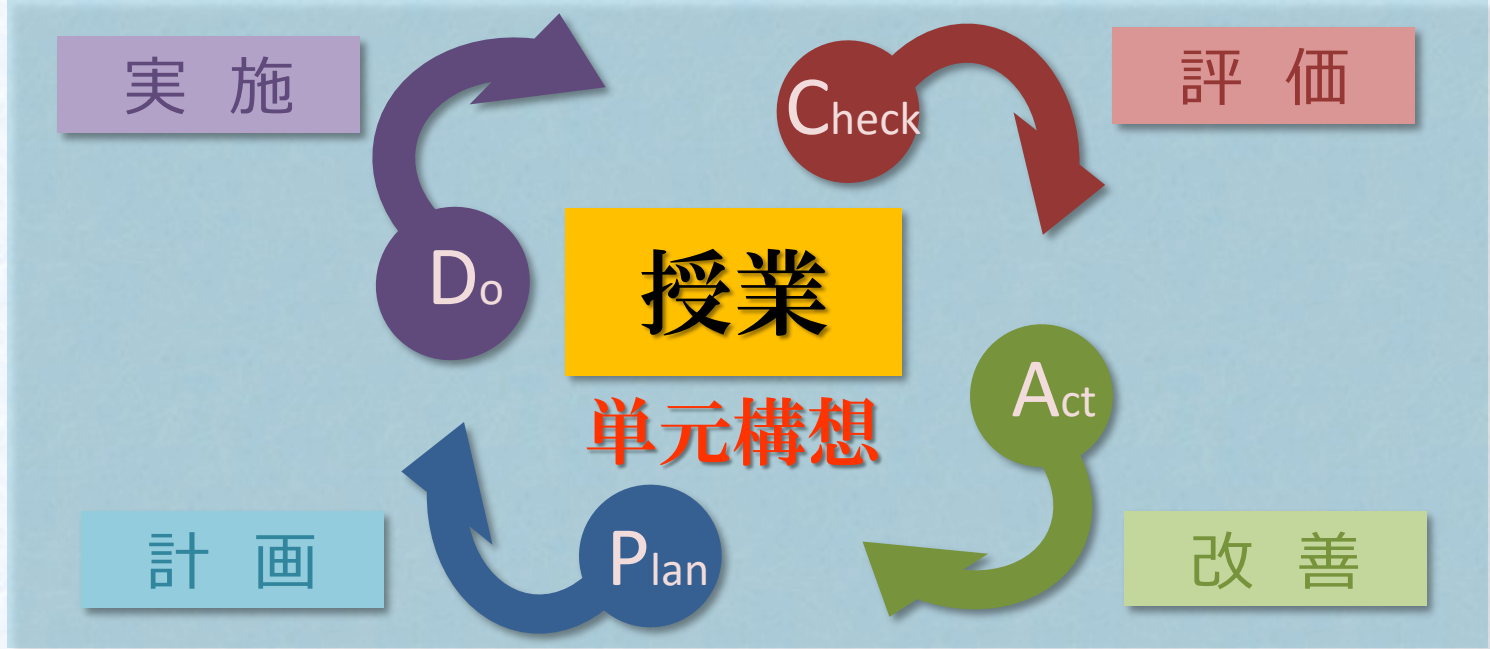
学校教育目標の具現化

主体的・対話的で
深い学び

育成をめざす
資質・能力



カリキュラムのPDCA



校長のリーダーシップ, 教頭・教務主任・研究主任の役割, 全教職員の協力

組織構造

人・物・財
組織・運営
時間・情報

家庭・地域社会

教職員の
意識・行動

学校文化
3

2 京都市の研究の概要 ～研究主題と研究の流れ(各拠点校の研究)～

研究課題

「本質的な問い」「永続的理解」「パフォーマンス課題」を取り入れた単元構想に基づく、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を通じて、児童生徒が主体的に学び、思考・判断・表現し、探究する力を育成する。

研究の流れ

拠点校 中学校4校, 小学校6校

基

「本質的な問い」「永続的理解」「パフォーマンス課題」を取り入れた単元構想を軸に、各拠点校の研究と関連付けながら、アクティブ・ラーニングの視点からの授業の手法等の改善を図る

各校の研究の視点

- ・「めあて」と「振り返り」を明確にした授業展開の徹底
- ・育成すべき資質・能力に即した年間指導計画の作成
- ・思考ツールの活用や知識構成型ジグゾー法を活用したグループワークの充実
- ・各拠点校の研究発表会や公開授業等による成果や課題の共有

下京中学校

- ・思考ツールの効果的な活用

梅小路小学校

- ・言語教育の重視

七条中学校

- ・思考ツール・ジグソー法等の効果的な活用

七条小学校

七条第三小学校

- ・チーム学習の展開
- ・キャリア教育連携

京都市立学校

教育課程指導計画

(京都市スタンダード)

小学校: 令和元年度改訂

中学校: 令和2年度改訂

実践共有による
全市での授業の
質的向上を目指す

本質的な問い

永続的理解

パフォーマンス
課題

育成を目指す資質・能力

向島小学校

向島藤の木小学校

- ・基礎基本の定着
- ・対話活動, ジグソー学習等

岩倉北小学校

- ・論理的思考

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- カリキュラム・マネジメントによる教育課程の改善

向島東中学校

- ・基礎基本の定着
- ・知識構成型ジグソー法の実践

洛北中学校

- ・思考ツール・ジグソー法等の効果的な活用

【京都市】

研究全体構造図

実践を通して共有された課題

研究の方向性

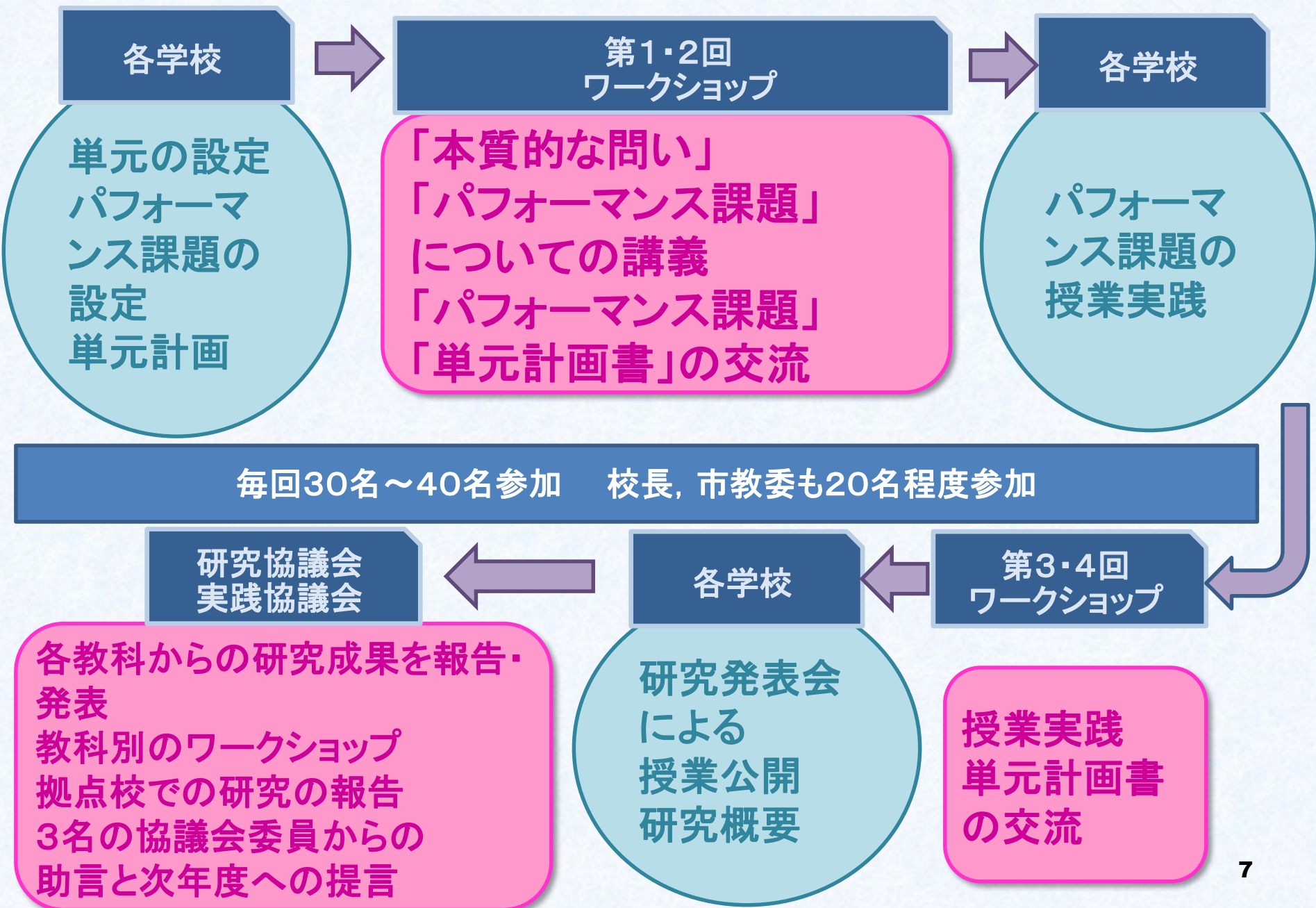
- 「パフォーマンス課題」を取り入れた単元構想
- 「主体的・対話的な学び」からつながる「深い学び」
- 深い学びを見極める評価の取組

- 汎用性の高い単元構想へ内容の充実
- 各拠点校の授業ツール(思考ツールや知識構成型ジグソー法等)と関連付け
- 1枚ポートフォリオの導入やルーブリックの作成

「本質的な問い」
「パフォーマンス課題」等
京都大学大学院西岡教授によるワークショップの実施

有識者を交えての
実践協議会と
研究協議会を開催

3 研究の実際 ワークショップを中心とした実践 平成30年度



学校の実態

- 下京中 :市中部。生徒数約550人
- 向島東中:市南部。 生徒数約210名
- 七条中 :市中部。生徒数約430人
- 洛北中 :市北部。 生徒数約810人

研究の概要

- ◆対話の可能性の研究
 - ・思考ツールを活用し、可視化・操作化を行い、見方・考え方を働かせ、理解を深める
- ◆言語活動や探究活動、問題解決的な学習を充実
 - ・「知識構成型ジグソー法」や「パフォーマンス課題」の実践
 - ・様々な知識のインプットとアウトプットのプロセスを通して、知識の定着と思考力・判断力・表現力の育成
- ◆単元構想・授業計画を通じて、教師の実践力向上
 - ・校区小学校とも連携した授業研究

学校の実態

- 梅小路小 :市中心部。児童数約250人
- 向島小 :市南部。児童数約230人
- 向島藤の木小:市南部。児童数約160人

- 七条小 :市中心部。児童数約420人
- 七条第三小 :市中心部。児童数約530人
- 岩倉北小 :市北部。児童数約310人

研究の概要

- ◆単元構想及び単位時間の授業の改善
 - ・「付けたい力」と「言語活動」を意識
 - ・単元構想の中で児童にとって必然性のある学習課題が設定できるように導入学習を工夫
- ◆「パフォーマンス課題」の考え方を取り入れた単元構想
 - ・課題を解決するための単元を通した課題解決型の学習

○本質的な問い

円の面積を求めるにはどうすればよいか？

○パフォーマンス課題

「ピザの大きさ比べ」

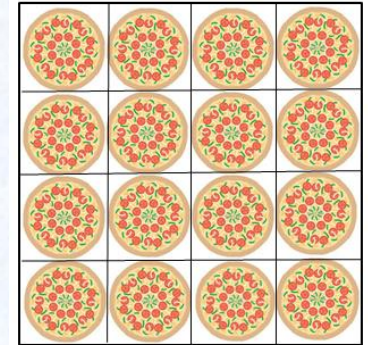
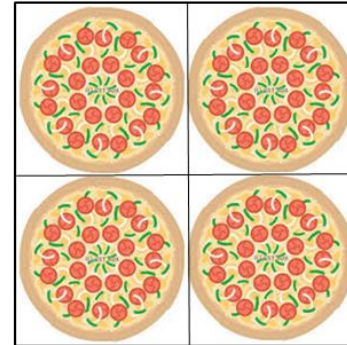
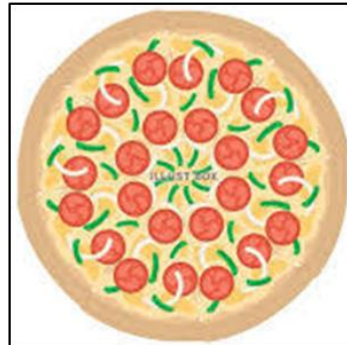
○授業で工夫したこと

日常生活と関連

普通に問題を解く(面積を求める)のではなく、お使いを頼まれ、わかりやすく説明してあげようという投げかけをしたことで子どもたちは面積を求めた後、わかりやすいように観明を考えていた。

パワーポイントを用意

個→協働で自信を持たせた



○成果

子どもたちが意欲的・自主的に活動できる。

→身近な事を題材にしているので生活に返していきやすい。

既習事項を使って解くことができる。

→1問目でつまづいても、2問目以降で到達できる。

(教科書の内容を参考にして、同じような作りになっている)

○児童の反応

- ・ピザの問題としたので、楽しく取り組めた
- ・普段の授業ではなかなかすることのできない児童が考え、イキイキして話し合えた
- ・日常生活との結びつきが大きく、算数を学ぶ意義についてもつなげることが出来た

○課題

・どの学びが展開できれば求められている「主体的・対話的で深い学び」になるのか。

→評価がしやすい学びにしてしまう

○児童の感想

- ・様々な意見を聞くことができた
- ・ピザの大きさが違っても、辺の大きさが同じであれば総面積は同じになるのがおもしろかった
- ・日常生活と結びついているものを他に探したい
- ・円の面積をもとめる公式に当てはめれば、とても遠く、簡単に解くことができた

■パフォーマンス課題を取り入れて

授業改善の意欲向上，指導力向上
単元構想および
1時間の中で学び
を深める授業構想
の重要性も確認

主体的・協働的な
学習を通して児童
生徒の意欲的な学
習の姿が見えた

身近な事象，児童
生徒が学びたくな
るパフォーマンス課題

教職員の授業改善，工夫した授業

好循環

教職員の取組への意欲
の向上

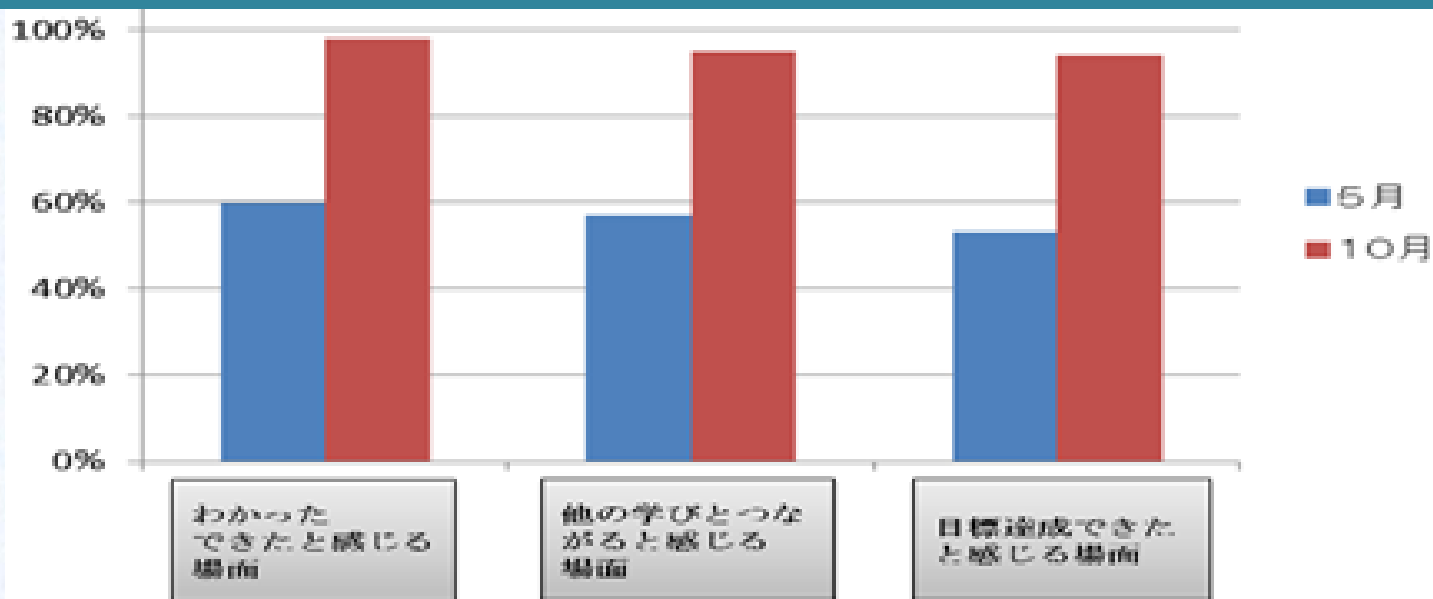
- ・同じ目標を持った他校教師との協働意識，学校間連携，支部内連携
- ・身近な事象，児童生徒が学びたくなる問いを取り入れた授業の創意工夫の意識が高まる

児童生徒の変容

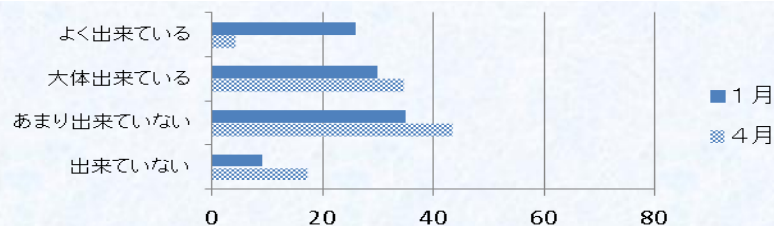
- ・休み時間になっても必死に自分の考えを伝える姿
- ・学習意欲が高まり，知識・技能の必要性を感じた。
- ・友人同士で学び合う姿の増加

好循環

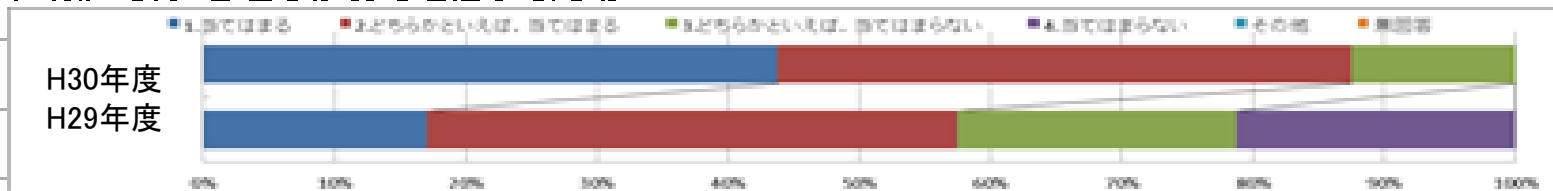
4 成果と課題 成果 生徒アンケート



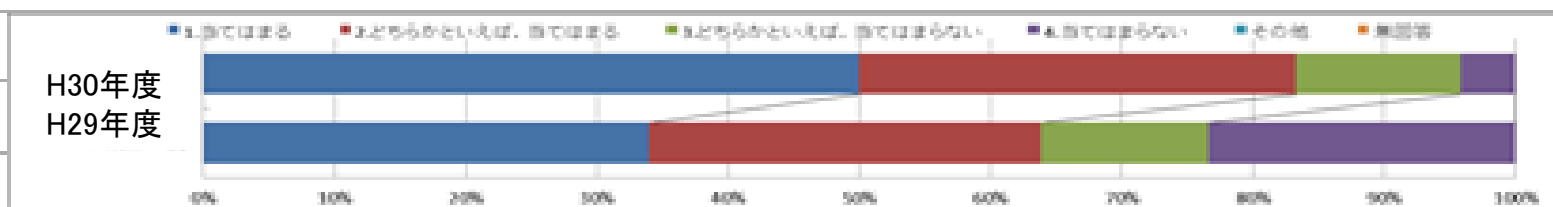
自分の考えを発表するとき、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していた



自分には、よいところがあると思いますか。



算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。



4 成果と課題 成果 「一枚ポートフォリオ」

文部科学省「教科等の本質を踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究ワークショップ研修」
一枚ポートフォリオ (Cf. 堀哲夫『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価 OPPA』東洋館出版社、2013年)

平成_____年度 所属_____学校
職名_____ 氏名_____

<p>【0】(研修開始時) 学力評価に関して重要だと思うことを3つの文で書いてください。</p> <p>① _____</p> <p>② _____</p> <p>③ _____</p>	<p>【6】(研修終了時) 学力評価に関して重要だと思うことを3つの文で書いてください。</p> <p>① _____</p> <p>② _____</p> <p>③ _____</p>
<p>【7】上記【0】と【6】の記述を比べて気付いたこと、考えたことを書いてください。</p>	<p>【8】本ワークショップ研修全体についての意見・感想等を自由に書いてください。</p>

【1】第1回ワークショップ	【2】第2回ワークショップ	【3】第3回ワークショップ	【4】第4回ワークショップ	【5】研究協議会・実践協議会
「本質的な問い」「パフォーマンス課題」に対するあなた自身の理解度 1 - 2 - 3 - 4 - 5 低- 高	「本質的な問い」「パフォーマンス課題」に対するあなた自身の理解度 1 - 2 - 3 - 4 - 5 低- 高	「本質的な問い」「パフォーマンス課題」に対するあなた自身の理解度 1 - 2 - 3 - 4 - 5 低- 高	「本質的な問い」「パフォーマンス課題」に対するあなた自身の理解度 1 - 2 - 3 - 4 - 5 低- 高	「本質的な問い」「パフォーマンス課題」に対するあなた自身の理解度 1 - 2 - 3 - 4 - 5 低- 高
①あなた自身にとっての成果	①あなた自身にとっての成果	①あなた自身にとっての成果	①あなた自身にとっての成果	①あなた自身にとっての成果

- ・「本質的な問い」「永続的理解」の理解が十分ではなかった
- ・平成30年度から、新たに参加する教師も増えた
- ・研修全体や各WSの前後で、一人一人の教師が成果や課題、疑問点等を確認
- ・教師自身の記録メモ的(忘備録的)な要素

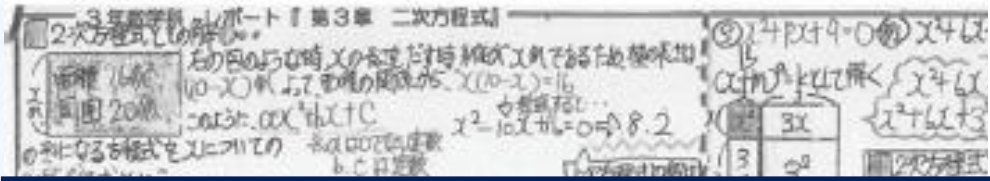
- ・パフォーマンス課題をどの単元に設定するのが最適なのか
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、教科の本質（見方・考え方）を捉えた授業構想
- ・ルーブリック作成の難しさ
- ・学力低位層に対する基礎的・基本的な内容の習得と活用・探究



パフォーマンス課題の取組を通して、「深い学び」の実現

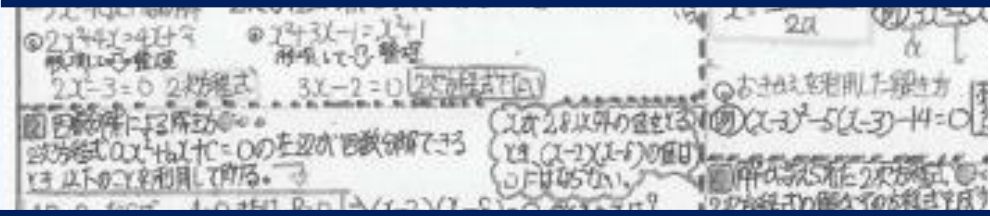
教科横断的な視点

カリキュラム・マネジメントを意識した体系的な取組



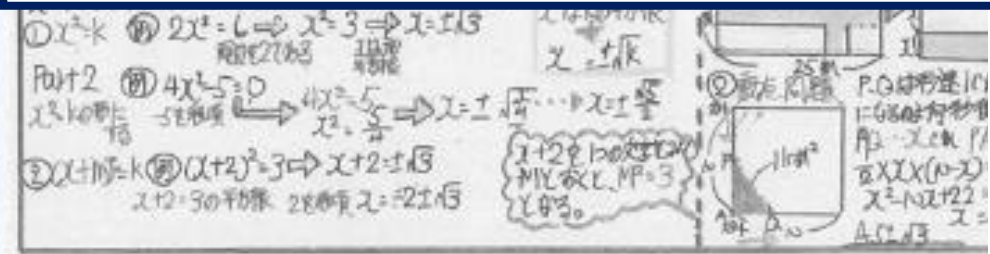
ワークシート ルーブリック作り	京都大学大学院教育学研究科 西岡加名恵
教科・科目: _____	学年: _____ 氏名: _____
単元・課題: _____	

① お互いの採点がわからないように、作品を採点する。



レベル	作品番号	記述語
3.. 良い		

② 似た評点がついた作品を集め、特徴について話し合う。
 ・まず、評価の(ほぼ)一致した作品について、レベルを確定
 ・評価が分かれた作品について、検討



1.. 改善を要する		
---------------	--	--

資料提供: 京都大学 西岡加名恵教授

5 今後の研究実践の展開

ワークショップ の充実

より汎用性の高い単元構想へ内容の充実

拠点校
中4校
小6校

先行実施校
ベース校に

ルーブリック
作成

カリキュラム・ マネジメントと のつながり

各教科間を関連付けた横断的で順序性を意識した単元配列表・年間指導計画を作成

新学習指導要 領を見据えて

重層的な取組とするため、引き続き、本市独自に実践研究を行う指定校を設定し、全市的な取り組みに展開

授業改革 事例集

パフォーマンス課題を設定した単元構想による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた事例集作成

令和2, 3年度に向けて作成する「京都市教育課程指導計画
(新京都市スタンダード)」改訂につなげる